

臨終から葬儀まで

カトリック安城教会の信者の手引き

葬儀のキリスト教的意義

「カトリック儀式書・葬儀」より

教会は葬儀において、何よりも復活信仰を表明し、キリストによって死者を神のみ手にゆだねる。死からのちへと過ぎ越されたキリストによってあがなわれたことを信じる教会は、葬儀において神の偉大なわざを記念し、感謝をささげる。

それは、死んで復活されたキリストに洗礼によって結ばれた信者が、キリストとともに死を通して生命に移るよう、すなわち故人が清められて、聖なる選ばれた者とともに受け入れられ、キリストの再臨と死者の復活を待ち望むよう祈るためである。したがって教会は、死者のためにキリストの過越のいけにえをささげ、彼らのために祈り、懇願する。こうして、互いにキリストのからだの部分として交わっている者は救いのわざにあずかり、遺族、参列者は希望と慰めを受ける。

教会の葬儀は、死者のために祈ることのみを目的としているのではない。生者のために祈る場でもある。

神ご自身が、悲しみのうちにある遺族の力、励ましとなってくださるように祈ると同時に、洗礼によってキリストの死に結ばれた者が、その復活にも結ばれることができる、という復活への信仰を新たにし、宣言する場でもある。

安城教会の推薦の葬儀社：

四生堂（地元の葬儀社） TEL：0120-87-2575

ディース（キリスト教式葬儀社） TEL：052-702-0040

カトリック安城教会

〒446-0072 安城市住吉町7丁目26-3

TEL: 0566-98-7766 Fax: 0566-98-7778

ウェブサイト：anjokyokai.org

1. 重篤のとき

家族に重篤の方がおられる場合、主任司祭に連絡をしてください。可能であれば司祭が病人を訪問し、ゆるしの秘跡、病者の塗油の秘跡を行い、旅路の糧であるご聖体を授け、主のもとへの旅立ちの準備をします。

なお、臨終のときだけではなく、重病にかかるたびに、遠慮なく以上の秘跡を司祭に依頼することが望ましいのです。本人やその親族に呼ばれたら、司祭は病院にも自宅にも行きます。

2. 死の直後

臨終に立ち会った人は、亡くなった方が御子イエス・キリストの復活にあずかり、すべての罪から解放されて、神のみ前に立つことができますように、「主の祈り」、「アヴェ・マリア」などの祈りをささげてください。

◎ 病院で亡くなったとき

通常、病院で亡くなった後、ご遺体が病院から出るまでに、2～3時間はかかります。医師による死亡診断書の作成、死後の処置などがあるからです。

ご遺体は葬儀社に依頼して、自宅に帰ることも、教会に直接移すこともできますが時間や事情によって、葬儀社に安置をお願いすることもできます。なお病院を出る際、必ず死亡診断書を受け取ります。

病院側が葬儀社を紹介してくれるケースもありますが、キリスト教式葬儀に精通しているとは限りません。安城教会の推薦の葬儀社に頼んだ方が、より安心できる葬儀を行うことができます。その旨、ハッキリと病院側に告げてください。

故人を直接教会へ連れて行きたいならば、まずは教会に連絡して、故人をお連れする許可をいただく必要があります。もし教会に連絡がつかないときは「搬送先に連絡がつかないので、連絡がつくまで故人を安置していただきたい」と病院に依頼してみましょう。

◎ 自宅で亡くなったとき

すでに亡くなっていると思われる場合、かかり付けの主治医がある場合には連絡をしてください。その他の場合、救急車を呼びます。警察に連絡をする必要がある場合もあります。

必要な連絡の後、教会へご連絡ください。深夜など、万が一教会に連絡がつかないときは、安城教会の推薦の葬儀社に連絡してください。

3. 日取り

一般的には死亡翌日が通夜、その次の日が葬儀ミサ・告別式となります。日程については、ご遺族の希望が尊重されますが、火葬場にも合わせる必要がありますし、教会にも、典礼暦、各種の行事の為に、執り行うことができない日もありますので、それによる調整も必要です。

4. 納棺

葬儀の日程などで納棺の日時も決まります。家族と司祭が納棺に立ち会い祈ります。

5. 通夜

遺族の方々と共に、故人をしのび祈るために通夜を行います。通常は教会で行われますが、自宅でも行うことができます。

6. 葬儀ミサ、告別式

イエス・キリストの死と復活の記念であるミサを個人のために捧げることによって、復活の希望を新たにしながら、個人を神のみ手にゆだね、神の慰めを受け、故人に別れを告げます。

故人とのお別れにあたり、通夜および告別式に於いても「献花」あるいは「お焼香」をして故人に別れを告げますが、どちらでも選ぶことができます。

式の中で「故人を偲ぶ」遺族の挨拶をすることも薦められています。

式の進行に関わる司会、オルガン伴奏、聖歌のリードなどは教会側で奉仕いたします。また、簡単な茶菓で、故人を偲ぶ時をもつこともできます。

7. 火葬

火葬の直前にお祈りをします。

火葬のあとは、「埋葬許可書」を受取り、納骨まで、遺骨とともに大切に保管してください。

8. 納骨

納骨の日取りや方法には、特にきまりはありません。日本の習慣にしたがい、四十九日目ぐらに行われることが多いようです。

納骨の日取りや納骨日にミサを依頼される場合は、主任司祭にご相談ください。

納骨すべき墓地が無い場合、主任司祭にご相談ください。

9. 葬儀の費用（教会への献金）

教会としてご遺体の安置、通夜、葬儀ミサ、告別式、ホールの利用などへの献金の金額について、きまりはありませんが、葬儀社にかかった費用の約10%は目安です。

教会側の奉仕した者への個別の謝礼は必要ありません。

10. 追悼の祈り

先祖に感謝し、その方々のために祈ることは、自然であり、大切なことです。

カトリック教会には特別な決まりはありませんが、信者は皆キリストによって一つに結ばれた者として、お互いのために祈り、助け合い、神の愛のうちに復活の希望をもって生きているのですから、死者のために祈ることは共同体としても大切なことです。故人のためにミサを捧げて頂くように「ミサ依頼」をすることもできます。

洗礼を受けずに亡くなられた先祖の方々のために祈ることも、大切なことです。

カトリック教会では11月を「死者の月」として、亡くなられた方々のために特別に祈ります。

*

◎ 緊急洗礼

信者でない人が受洗を望んでいる場合は、病床に司祭を招いて、洗礼を授けてもらうことができます。私たち信者にとって大切なことは、本人が洗礼を望んでいるかどうかを日頃から確かめておくことです。

司祭を招く余裕がなく、日ごろから洗礼を望んでいる人に対しては誰でも、たとえ洗礼を受けていない人でも、洗礼を授けることができます。その時、本人の名を言って、「○○○さん、わたしは、父と子と聖霊のみ名によって、あなたに洗礼を授けます。」と言いながら、頭の上に水を三回注ぎます。

洗礼を授けた後は速やかに教会にその旨を届けることが必要です。

◎ 家族のうちの自分一人だけが信者の場合

いちばん良い方法は、生前、家族や身近な方の前で、自分の葬儀はカトリック教会で執り行ってほしいと希望を伝え、教会への連絡、相談などを教会の親しい友人に頼っておきましょう。